

# 東京都公共図書館の書誌的活動

安藤 菊二

読書子にとつてなにより関心事は、おそらく、目下自分の求めつつある資料が、どここの図書館に所蔵されているかということであろう。

国立・県立の図書館にあつては、おおむね完備した蔵書目録を刊行し、読書子にその恵を頒っているが、現在、東京都の区立図書館において印刷された自館の蔵書目録を持つている館といへば寥寥数えるほどしかない。そのために、利用者の多くは、蔵書目録の整備されている国会図書館や日比谷図書館へ雲集するという奇現象を見せているのではなからうか。

東京都の下町にある公共図書館は、関東大震災に遭遇している中で、その収書はおのずから昭和以降に局限されているにしても、すでに半世紀にわたる蓄積があり、その量は僅少なならざるものがある。それにもかかわらず、蔵書目録の編刊がないがしろにされているために、開架室に出されている以外の書物は、空しく書庫に死蔵せられて、充分な活用がなされずにいるということは、いかにももつたない話である。

人手不足の現況から見ても、各館に蔵書目録編成のための人員を割く余裕のないことは判っているが、確固たる方針さえ立てば、実施不可能というほどのことではあるまい。

将来、中堅どころの区立図書館のすべてが刊行された蔵書目録を保有するにいたつた暁には、収書の大概を展望することが可能となり、連絡体制の拡充強化に資すること多大なるものがあるであらう。図書の貸出しを増加させることももちろん重要であるが、それを重視するあまりに、基礎作業としての書誌活動を忘れてはなるまい。そうした反省に立って、私はここに、東京の図書館界の歩みを書誌活動の面から観察してみようとする。

## 一、都立日比谷図書館の書誌活動

日比谷図書館は、明治四一年（一九〇八）一月東京都における最初の通俗図書館として開館した。開館当初の蔵書数は二万五千余冊。大正四年には、御即位の大禮の際のご下賜金十万円を基金として、その利子をもって、年々江戸開府以来の東京関係資料の聚集に着手し、大正一〇年一〇月には館報『市立図書館と其の事業』を發刊して、姉妹館たる市立図書館のトップリーダーとしての活動を開始した。

この館報が当時の市立図書館を指導し、啓発し育成した功績は没すべからざるものがあつた。しかるに、そのころ市立図書館と呼ば

れていた東京の図書館は、大正一二年の関東大震災によって大災厄を被り、麴町・一橋・外神田・日本橋・両国・京橋・月島・台南・浅草・本所・中和・深川の一二館は貸出図書の一部を残して一挙に灰燼に帰してしまつた。これらの図書館が復興する過程にあつた昭和初期には東京の市立図書館の書誌活動は一日比谷図書館の双肩に懸っていたし、館報『市立図書館と其の事業』は、東京の図書館の代辯者として孤軍奮闘の形であつたから、力の入れ方もおのずから違つていたのであろう。編集は主として、図書館学とその実務に深い造詣のあつた竹内善作氏が当り、昭和一四年までに七六号を重ねている。水準の高い館報で、瞥見しただけでも

児童図書分類目録

8号(二年十一月)

原著訳書対照図書目録

22、26号(一三・九、一四・一)

小説の部、其一、独逸、其二、仏蘭西、其三、英米、中田一良

大正大震災火災に関する図書目録 (Z・T) 23号(二三・二〇)

経済論叢分類索引 25号(一五・四)

憲政に関する図書目録 竹内善作 37号(一五・一〇)

など、今日なお役立つ目録や論文が数多く載っている。

日比谷図書館では、その間逐次増加図書目録を刊行して来たことみて、大正一三年に増加目録第四七・五六号として

1、江戸時代小説目録

を特輯し、以後、昭和一四年までに、次のような目録を編集刊行して、東京誌料の持つ重要性を示して来た。

2、演劇展覧会目録 第一回

3、歌舞伎興行略年表 第一篇

4、演劇展覧会目録 第二回 大正一四

5、歌舞伎興行略年表 第二篇 大正一四

四世鶴屋南北之部

6、新井白石関係文献総覧(東京誌料特別調査) 大正一五

7、江戸風俗年中行事展覧会目録 大正一五

8、柳亭種彦  
喜多村筠庭  
斎藤月岑追悼記念祭陳列目録 大正一五

9、制定記念明治文化資料展覧會目録 昭和二

10、江戸城建築史料展覧會目録 昭和三

11、江戸城建築年表 昭和三

12、江戸城物かたり 昭和四

13、京橋区史料展覧會目録 昭和四

14、大東京関係誌料目録 地誌之部 昭和七

15、往来物展覧會出陳目録 昭和一〇

16、東京誌料図書目録 風俗年中行事之部 昭和一四

(東京市立図書館と其事業 第七六号)

これらの目録は、多くは展覧会のために編集されたものであるが、新井白石関係資料総覧のように、時間をかけた資料索引の編集も行なつていたのであつた。

また、昭和一二年には、単行の文庫目録として

近藤記念海事財団文庫目録 一冊 邦文八三頁、索引二六頁、欧

文五二頁

を刊行した。この文庫は、昭和一一年に、近藤記念海事財団が、その十周年記念事業として設立した文庫で、基本図書三八七八冊を収集して、東京市に寄附を申出たので、日比谷図書館の特別収書として保管し、永く公衆の閲覧に供することとなつたのである。

シナ事變が太平洋戦争に拡大し、敗色ようやく覆い難くなつた昭

和一九九年、同館では蔵書の疎開を計画するとともに、戦火の危機にさらされていた学者の文庫を購入して、西多摩の農村に疎開したが、二〇年五月、疎開作業中に爆撃を受けて、不幸にも近藤海事文庫の過半を失い、館もまた焼亡して、疎開するにいたらなかった「カーネギー国際平和財団文庫」も、ゴルドン夫人の寄贈された「日英文庫」も、残りの総ての蔵書とともに烏有に帰してしまおうという不運に遭遇したのであった。

戦火収まり、終戦後の混乱から立直った同館では、疎開によつて戦火から救つた文庫の整理に着手し、応急の措置として謄写印刷による『東京誌料目録』三冊を印刷して、読書子の要望にこたえ、三年五、六号から、遂次本格的な文庫目録の刊行を開始した。

戦後同館で刊行した目録類を表示すれば、

- 1、東京都公共図書館郷土資料総合目録 昭三五 「館長協議会」編集、日比谷図書館刊 活版八七・二八頁
- 2、東京誌料分類目録その一 昭三四 活版二八五頁
- 3、同 その二 昭三五 " 三〇三頁
- 4、同 書名索引(一般図書篇) 昭三六 " 一二八頁
- 5、加賀文庫目録 加賀豊三郎氏旧蔵書。今日ほど書物の抵底せぬ時代に、潤沢な資金を投じて集めただけに、江戸文芸に関する奇籍珍書に富む。 昭三七 活版一四五・三九・八頁
- 6、諸橋文庫目録 昭三八 活版二八一・六七・八頁
- 7、市村文庫目録 東京帝大教授、東洋史学の重鎮であった市村瓊次郎博士の旧蔵書目録。漢籍、朝鮮本、それに博士の郷里茨城県郷土資料が含まれている。 昭三八 活版二八一・六七・八頁
- 8、参考図書目録 和書 昭三八 タイプ二八〇頁
- 9、同 洋書 " タイプ 七九頁
- 10、井上文庫目録 井上哲次郎博士旧蔵書目録 和漢洋にわたる哲学宗教に関する図書二五一六点を収める。 昭三九 活版一三五・二三・三頁
- 11、青淵論語文庫目録 昭四〇 活版四五・八頁
- 12、江戸地誌の目録 昭四一 "
- 13、近藤記念海事財団文庫目録 日本郵船株式会社社長近藤廉平氏の海運事業に尽された大きな功績を顕彰する目的で集められた収書 四千余点の内、一九年一月の空襲でその過半を亡ない、僅に一五〇〇点を残した。収書一九九点、巻頭に図版を載せる。 昭四一 活版三五・六四頁
- 14、実藤文庫目録 早大教授実藤惠秀氏の収書 A、中国人の東遊日記 B、中国人の日本語学習書 C、漢訳された日本書籍 D、清朝末期の新学全書 E、西洋人の著作した漢文書 F、中国創刊の雑誌など、近代日中文化交流史に関する、えがたい資料が集められている。収載部数二〇二〇点。 昭四一 活版 図版
- 15、特別買上文庫目録 諸家 国書(言語・文学) 昭四三 活版 図版 六七・四・三二頁  
中山久四郎博士の中山文庫、蜂屋茂橘の蜂屋文庫、国語学者安藤正次博士の安藤文庫、漢学者岩垂憲徳翁の岩垂文庫、出雲神宮中村守臣守手父子の自筆稿本、池田亀鑑博士の伊勢物語の収書その他を収めた目録。収書二七一部
- 16、特別買上文庫目録 諸家・国書(総記・其の他) 昭四四 一四〇・四〇頁

などの多数を数え、このほか、戦後同館収集資料をまとめて  
17、雑誌新聞目録 和文編〔未定稿〕

昭三六 タイプ 八四・二〇頁

18、現代歌集目録 一九六六年九月三〇日現在

一九六七 活版 一〇二頁

19、蔵書目録 一九六〇～一九六五

昭四三 〃 七六七・一八七頁

20、同 一九六〇～一九六五

人文学・芸術・語学・文学

昭四四 〃 六七二・一一三頁

21、同 一九五五～一九五九

昭四五 〃 六四六・一二九頁

22、東京都公立図書館新聞総合目録（館報通巻九三号抜刷）

「参考事務連絡会」編集 日比谷図書館刊

昭四四 二九頁

23、映画目録 一九六九年

昭四四 タイプ 一八四頁

24、団体貸出図書目録（年六回刊行予定） タイプ

を編刊、昭和四四年には「館長協議会」で編さんした『東京都公共

図書館略史』（一九六頁）を刊行、四五年には「研究紀要」（九一

頁）を創刊した。このほか、閲覧用索引として、「件名から引く参

考文献目録」・「人名から引く参考文献・年譜索引」・「判例集目

録」・「社史・団体史目録」・「文学作品語句索引」・「逐次刊行物

総目次および総目次索引」・「新聞記事索引」などを作成して閲覧

者のサービスも行なうなど、書誌的作業を一手に引受けて、中央館

としての実力と機能を遺憾なく發揮している。

日比谷図書館の書誌的活動といえば、館報「ひびや」を発行し、館の経営運営に数々の有益な指針を与えているこの功績もまた逸することができない。館報「ひびや」は昭和三三年創刊以来、今年で通巻一〇二号を算する。

このほかにも、日比谷図書館の行なっている重要な活動に「展覧会の開催」があり、『展覧目録』の印行がある。館では戦前から東京誌料による展覧会をしばしば開催してきたが、誌料は加賀文庫を併せて、ますます充実味を加え、昭和四〇年からこの誌料により、前後四回にわたって江戸資料展と明治前期の東京の展覧会を行ない、多数の参観者を動員することに成功した。そのつど配布された、写真入りの解説目録が、東京誌料の解説目録として別個の役割を果していることに注目したい。

## 二、区立公共図書館の書誌活動

### イ、蔵書目録の刊行

東京都の第一線図書館たる、区・市立図書館の行なっている書誌的活動は、館の性格上、日比谷図書館に比すべくもないが、便宜上表示してみると次頁の表のごとくである。

こうして一覽してみると、蔵書目録の編集については、一、二の図書館を除いて、きわめて冷淡な扱いをしていることが明瞭に看取できる。多忙に過ぎて、この仕事にまで手が廻りかねるとい実情があるのかも知れぬ。

東京都内公共図書館の刊行蔵書目録

館名

書名

頁

千代田

千代田区民文庫総合目録 昭和四〇年度  
一般図書開架用図書蔵書目録(昭43・44・昭44・12)  
こども室図書目録(昭43・44・昭44・12)

昭45

タイプ

三〇五

京橋

郷土資料目録

45

タイプ

三六

同

(増補改訂版)

44

〃

一〇〇・三三

鷗外記念本郷  
新宿

鷗外記念室蔵書目録 昭44・3 現在  
新刊図書目録 昭和42

44

活

二三

台東

蔵書目録 一九六二

43

タイプ

一〇〇

同

No 2

38

〃

一五六

墨田区立緑・寺島

郷土資料目録—台東区編  
東京都墨田区立図書館増加図書総合目録

39

〃

八八

深川

郷土資料目録

No 1

34

活

三六四

同

No 2

35

〃

八五

城東

永井荷風に関する蔵書目録  
城東図書館作家別蔵書目録第1集

41

〃

一五一

品川

東京誌料情報 第二号  
東京地域資料目録 第一・第二分冊

38

タイプ

七〇

40・42

一〇九

特殊分類

目黒区立守屋

団体貸出用図書目録 第二版

児童基本図書目録 第一分冊・第二分冊

主要参考図書案内 人文科学編

郷土資料室目録概要

郷土資料室目録 昭年42度末現在

目黒区立守屋図書館蔵書目録

蔵書目録 児童室用 No 1

同 館外貸出用 No 2

同 洋書(昭和四二年末日現在)

同 一般図書第一分冊(総記(社会科学))

同 学生室用図書 館外児童用

蔵書総合目録 第一集 昭和三六

区民文庫目録 No 1~No 5

郷土資料目録 一九六八:一付 豊島区文化財一覽

参考図書目録 No 1

全集双書目録

行政資料目録 一九七〇

蔵書目録

大賀文庫目録

蔵書目録 第一集・第二集

視聴覚資料目録 昭四三(ルーズリーフ式)

自動車文庫目録第一集 昭四六

昭39 孔版 六七

42~44 タイプ 三五・五七

40 " 五九

39 " 一七

43 " 九六

39~45 タイプ 九冊

39 " 六九

39 " 一四一

42 " 八九

40 " 三五七

40 " 一六六

36 孔版 三六七

38~43 " 六五

43 タイプ 一〇七

40 " 二二九

43 孔版 八一

45 活 五二

37 活 二二六

43 タイプ

42 タイプ

44 タイプ 一五五・三六

豊島

練馬

府中

日野

北区

しかし、はたしてこれでよいのであろうか。もし各館における目録編成が、種々の点で困難が伴なうというのならば、館ごとの選書目録、あるいは部門別蔵書目録の提出を求めて、遂次中央館たる日比谷図書館で総合目録を作成するのも一法であろう。総合目録の便利なことは、すでに東京誌料や新聞の総合目録（「ひびや」通巻九三号）によって証明済みである。

### ロ、郷土資料の刊行

ところで、最近数年間に起った著るしい現象は、都心部二、三の図書館で、収集資料を駆使して調査報告を出し初めたことである。期せずして起ったこの新活動は、沈滞し勝ちな図書館活動に、新路線を布設しつつある点ですこぶる注目に価する。

#### 〔千代田図書館の活動〕

千代田区教育委員会では、最近矢つぎ早に二、三の好著を世に送った。

- |                 |     |         |
|-----------------|-----|---------|
| 1、千代田図書館八〇年史    | 昭四三 | 三三六頁    |
| 2、明治百年を語る古老のつどい | 昭四四 | 一六一頁    |
| 3、神田の祭その周辺      | 昭四五 | 図版 一三四頁 |

ともに千代田区の刊行になっているが、資料の収集・編集・構成などの実務は、すべて図書館の管理係長鈴木理生（旧名）（政雄）氏が、公務の余暇をもってこれに当った。いずれもすぐれた内容の本であるが、中には一カ月というようなきわめて短期間に編集刊行がなされており、無理なスケジュールに迫られている鈴木氏に同情の念を禁じえない。

千代田図書館は、戦前駿河台図書館と称していた時代に、『近世

肖像索引』のごとき、利用度の高い調査報告を出している。そうした伝統がなお承継がれているとみえる。

〔中央区立京橋図書館の活動〕ここでは

- |               |     |         |
|---------------|-----|---------|
| 1、佃島年表        | 昭四一 | 七三・一三頁  |
| 2、中央区年表 明治文化篇 | 昭四一 | 一七二・四〇頁 |
| 3、中央区年表 大正世相篇 | 昭四六 | 一九三・一〇頁 |

を刊行した。ともに筆者の片手間の編集で、いわば中央区史の跡始末をかねたアフター・サービスである。

#### 〔港区立三田図書館の活動〕

旧一五区時代の芝・麻布・赤坂三区を合併して成立した本区には、寺院や史蹟が多く、区の教育委員会自身観光事業や文化財保護運動に格別の力を入れている。そうした背景を持つ三田図書館には「特別資料室」が設置されていて、年間二百万円の予算を擁し、俵元昭氏を中心に佐藤明・板坂達磨・棚橋三雄氏らが参画して積極的な書誌的活動を行なっている。「一歩進んだ資料紹介」を標榜するだけあって、書型も携帯の便を考慮した小型の写真文集として

- |           |     |      |
|-----------|-----|------|
| 1、明治の港区   | 昭四一 | 二〇七頁 |
| 2、読・明治の港区 | 昭四三 | 二〇七頁 |
| 3、戦乱と港区   | 昭四四 | 二五五頁 |
| 4、描かれた港区  | 昭四五 | 一六五頁 |
| 5、同       | 昭四六 | 一七〇頁 |

等を刊行し、収集した文芸資料や絵画資料を惜しげもなく投入して、資料の公開普及を行なっている。こうした作業は、現場と直結し、土地勘豊かな第一線図書館の持味を充分生かしたものと評してよからう。その上、昨年は『東京都港区近代沿革図集』（赤坂青山

昭四五 一七四頁26×22)を編刊して、多大の反響を呼んだ。これは収集した地図を活用して、地区と地番の変遷を跡づけたもので、創見に富むユニークな業績として学界からも高い評価を勝ち得た。本館の場合は、慧敏な俵氏の企画力と実行力が、教育委員会を動かし、その活動を可能にしている特異なケースであるが、私達から言えば最も望ましい体制である。

〔新宿区立新宿図書館の活動〕本館の郷土資料室は、大川清・宮寺庚一の両氏が運営に当り、『資料室紀要』として、今日までに

1、落合の横穴古墳

昭四二 二〇頁 図版一〇頁

2、豊多摩郡の内藤新宿 一九世紀末の

昭四三 七七頁 地図一

3、江戸上水木樋(本室収蔵の)

昭四四 四二頁

4、神楽坂境界の変遷(江戸期から大正期まで)

昭四五 一三八頁 地図一

5、四谷南寺町境界

昭四六 八五頁

の五報告を刊行している。都心部と違って錦画や写真に乏しい代りに、かつての宿場や盛り場を持ち、高名な文士の居住地の多い地区の特性を捉えて、古老を歴訪して刻明な記録を作成している努力に見習うべき点が多い。かように、地域資料の収集につとめている区立公共図書館が、曲りなりにも新路線を開いたことは一つの進歩であって、ゆくゆくはこの図書館でもこうした地域資料の紹介・書誌に力を割いてもらいたいものだと思う。

(あんどろ・きくじ 中央区立京橋図書館)